BirdLife INTERNATIONAL

バードライフ・インターナショナル

海洋プログラム

～世界の海洋保全を牽引する海鳥～

RSPB

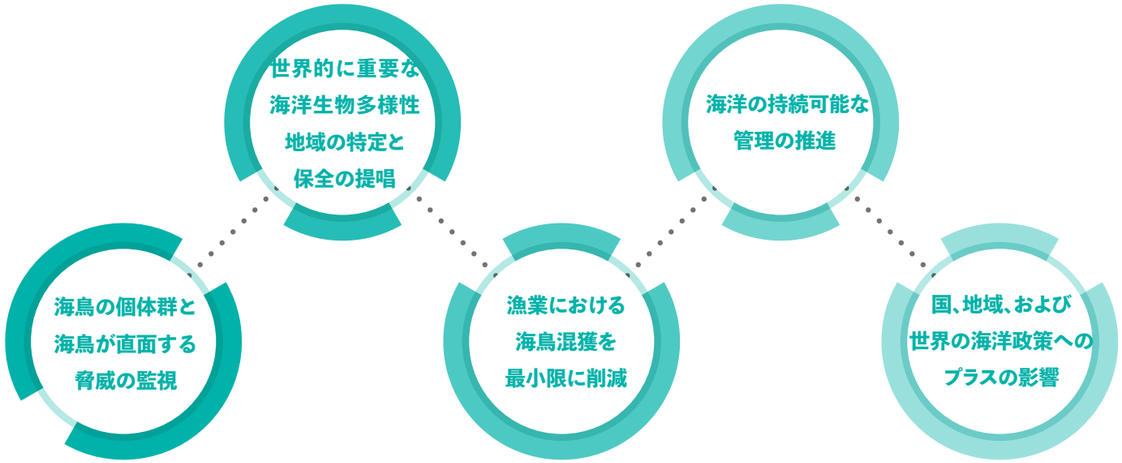
私たちの優先事項
健全な海のために

海鳥は海の豊かさの指標でありながら、絶滅の危機に最も近い鳥類です。このことは海鳥やその他の多くの生物、そして私たち人間にもとても重要である海への姿勢のあり方を、私たちに問いかけているのではないでしょうか。

バードライフの海洋プログラムでは、海洋専門家たちの世界的なパートナーシップを通して、海鳥個体群の保全状況の改善に取り組んでいます。私たちの理念は、エビデンスに基づくアプローチです。つまり科学に基づいて、そして草の根的な保全活動を通じて情報を積極的に吸収し、それに応じてアプローチを変化・適応させることなのです。先住民や地域が主導する取り組みが、有意義な保全の成果をもたらしてくれます。私たちは専門的知識と経験を融合し、長期的な変化を生むような土壌を育んでいます。

私たちの科学は、国、地域、そして世界レベルで海洋政策にプラスの影響を与えています。自然界に恩恵をもたらし、海と日常的に関わるコミュニティのニーズを考慮した、新たな変革を推し進めています。

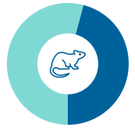
海鳥が直面する脅威に対処するため、私たちは以下の主要な分野に重点を置いています。



海鳥が直面している脅威

私たちは、海鳥が直面する問題の抜本的な解決に向けて、主な脅威に狙いを定めています。

海鳥全種類のほぼ半数が個体数の減少に見舞われており、影響を受けている海鳥種の数と海鳥全体に対する影響を調べたところ、侵略的外来種（移入種）、漁業における混獲、気候変動が三大脅威だと判明しました。



移入種は全海鳥種の 46% に影響を及ぼしています。
海鳥の成鳥、その雛や卵はすべて、人間の活動によって持ち込まれた捕食者の犠牲になる可能性があります。つまり人間の活動は海鳥の個体数を減少させるのです。当プログラムではこれらの捕食者を除去することで、海鳥の数が急速に回復することを実現しました。

漁業における混獲は、全海鳥種の 28% に影響を及ぼしています。
海鳥は漁業で使われる釣り餌を簡単に捕まえられる餌と勘違いして、漁具にかかって命を落とすというリスクに晒されています。実用的かつ効果的な対策が既にありますが、今後はより大きな規模で行う必要があります。

気候変動は全海鳥種の 27% に影響を及ぼしています。
地球温暖化による海面温度の上昇、海流の変化、海面上昇、異常気象のため、海鳥が餌を見つける場所や時間、雛の生育環境が大きく変わってしまうのです。

魚の乱獲も海鳥が直面するとても深刻な脅威であり、これが主原因で24 種の個体数が減少してしまいました。乱獲は他の脅威と比較すると影響を受ける種は少ないですが、その深刻度はかなり大きいのです。

© Leo Tamini

これら三大脅威を改善するだけで、全海鳥種の 3 分の 2 つまり世界の海鳥個体数の

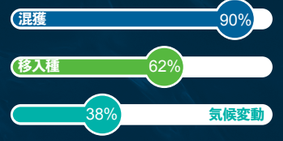
45%

が恩恵を受けるのです。

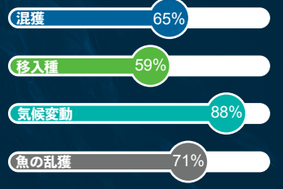
世界的に絶滅の危機に瀕する種類を救う

アホウドリ類、ミズナギドリ類、ペンギン類は、海鳥の中でも最も絶滅の危機に瀕している 3 つのグループです。種の存続を確実にするためには、陸性と海洋環境両方の脅威に取り組むことが必要不可欠です。

アホウドリ類:



ペンギン類:

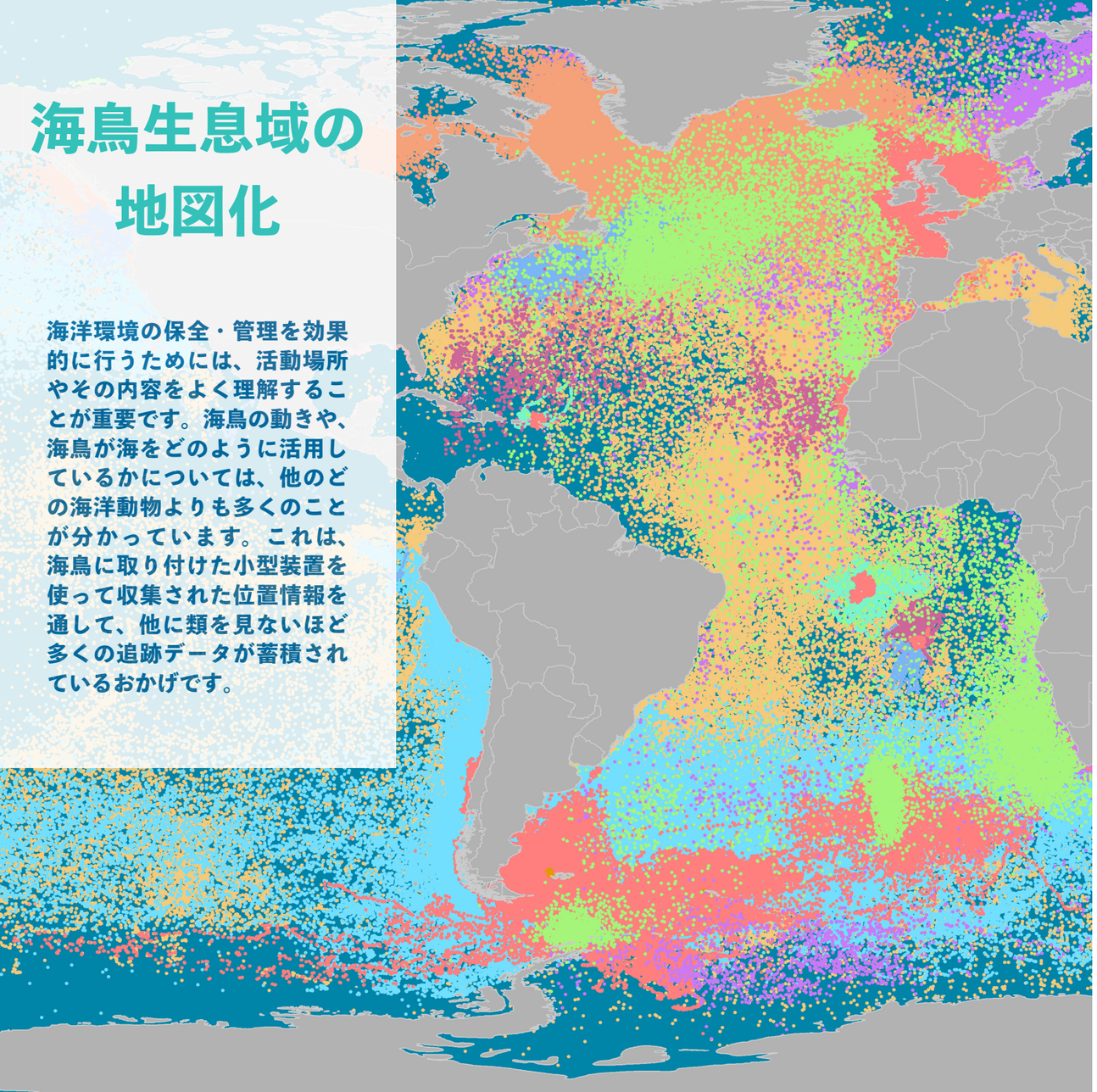


ミズナギドリ類:

数字は各脅威の影響を受ける種の割合を示しますが、必ずしもそれぞれの範囲や深刻度を反映しているわけではありません。詳細は Dias et al. 2019 を参照。

海鳥生息域の地図化

海洋環境の保全・管理を効果的に行うためには、活動場所やその内容をよく理解することが重要です。海鳥の動きや、海鳥が海をどのように活用しているかについては、他のどの海洋動物よりも多くのことが分かっています。これは、海鳥に取り付けた小型装置を使って収集された位置情報を通して、他に類を見ないほど多くの追跡データが蓄積されているおかげです。



バードライフは世界中の海鳥科学者と協力し、世界最大の海鳥追跡データである「海鳥追跡データベース」を管理しています。

1,000 以上のデータセットを収録

150 種以上の海鳥

合計 **2,000** 万点以上のデータポイント

250 人以上の科学者によるデータ提供

© Steph Prince

© Ana Carneiro

海鳥追跡データベースを通して、データ所有者はデータの保存や共有、研究プロジェクトへの協力、そして海鳥の保全に貢献することができます。そのデータベースを用いて可能になった共同作業によって、私たちの海洋保全活動の多くは支えられています。過去 15 年間、私たちは海鳥の追跡データに基づいて、地域、国、さらには地球規模で行われている保全活動や政策に情報を提供してきました。また、海鳥やその他の生物多様性が最も危機的状況にある地域を、ピンポイントで特定してきました。

seabirdtracking.org で海鳥データの世界を探検してみませんか?

海鳥の追跡データベースは、すでに研究論文や報告書を含む

200 を超える

共同研究の手助けとなっており、 今もなおその数は増え続けています。

海鳥の
最も重要な
生息域を守る

海鳥のライフサイクル（育雛、給餌、渡りを含む）の各段階で、極めて重要な意味を持つ場所を特定することで、海鳥の数の減少を食い止めるために必要な保全活動を確実に行うことが可能となります。

私たちは、世界中のバードライフ・パートナー団体と協力して、海鳥の重要生息地（IBAs）、そして生物多様性重要地域（KBAs）を特定しています。IBAs と KBAs は国際的に合意された基準を用いて定められた世界的に重要な場所で、生物多様性にとって大きな意味を持つ生息地の最大のグローバルネットワークを形成しています。

海鳥の追跡データを用いて海鳥の重要な生息地を特定できるよう、私たちは長年の経験を活かしながら、実用的で段階的なツールキットの開発を率先して行っています。

IBAs と KBAs はすべての海盆で特定されており、政策決定を行うにあたり、生物多様性に関する重要な情報源となっています。IBAs と KBAs は、政府、国際条約、NGO セクター、企業の活動に有益かつ、保全と政策のあらゆる段階で情報を提供しています。

海鳥と海洋の IBAs と KBAs は、以下の支援に役立っています。

・海洋空間計画のプロセス

・海洋保護区の指定や、その他の海域ごとの効果的管理ツールの特定

・生態学的あるいは生物学的に重要な海域の選定

・海域ごとの漁業に関する保全措置の策定

© Bethany Clark

© Steph Prince

© Bethany Clark

500 万羽

に及ぶ海鳥が、北大西洋・エブラノフ海盆海洋保護区を生息地としています。世界的に絶滅の危機にある、バミューダミズナギドリ、マデイラミズナギドリ、ミツユビカモメ、西ツノメドリ、デザータスミズナギドリを含む、21 種類の海鳥が生息しています。

北大西洋・エブラノフ海盆（NACES）海洋保護区

バードライフは専門家チームを率い、「海鳥追跡データベース」を使用して海鳥追跡データの共同分析を行い、北大西洋で多くの海鳥が生息する主要な海域を特定しました。

フランスと同じ面積の海域をカバーする NACES 海洋保護区は、大西洋で最も重要な渡り海鳥の密集地を保護する役割を担うとともに、追跡データに基づいて指定された公海で初の海洋保護区です。

漁業による
海鳥混獲を防ぐ

漁業による混獲は海洋における海鳥の個体数減少の最も大きな原因であり、毎年少なくとも 60 万羽が命を落としています。当プログラムでは、漁業が海鳥にとって安全なものになるよう取り組んでいます。

混獲とは、海鳥が偶発的に漁具にかかってしまうことです。はえ縄漁では餌に仕込まれた釣針にかかって溺れたり、トロール網を引くケーブルに当たって致命傷を負ったり、あるいは刺し網や巻き網に絡まったりしてしまうのです。

しかし、海鳥混獲を削減できる、シンプルで効果的な技術的対策があります。当プログラムが協働した活動で、対策を使うことによって海鳥の混獲を 90 %以上削減できることが証明されています。多くの海鳥が救われたのです！

各海鳥種の行動や、漁船の種類、使用する漁具に応じた対策が使われています。そして、海鳥だけではなく漁業者の生活も守るため、漁業関係者らと密に連携しながら、商業船において対策の実証実験を行っています。この取り組みは、様々な国の漁船団で対策を実施してもらうために不可欠なのです。

© Dimas Gianuca

最善な解決策

はえ縄漁とトロール漁

はえ縄漁とトロール漁による海鳥への脅威はよく知られている一方、不必要に海鳥の命を奪う混獲を防ぐ方法もよくわかっています。現在認められている最善の対策は以下の通りです。

- **トロール漁**：魚くずなどの残渣廃棄の管理と鳥を寄せ付けなくするトリライン
- **はえ縄漁**：残渣廃棄の管理、トリライン、漁具の夜間設置（夜間投縄）、枝縄への錘装着（加重枝縄）の組み合わせ。革新的な代替案としては、釣り針保護装置や漁具の海中設置が含まれます。

刺し網漁と巻き網漁

当プログラムでは、刺し網漁と巻き網漁における海鳥混獲の削減を目指して、対策の開発と実証実験を通した革新的な研究を率先して行っています。これらの漁業は小規模であることが多いなどのため、効果的な混獲対策の開発が難しい状況に置かれています。しかし今までの豊富な経験があるからこそ、私たちはこのような課題の解決策を模索するパイオニアなのです。

はえ縄では毎年少なくとも 16 万羽、潜在的には

32 万羽以上

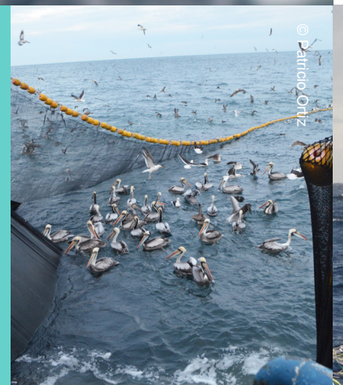
が命を落としていると推定されており、特にアホウドリ類やミズナギドリ類が多く犠牲になっています。

トロール：トロール漁による混獲のデータは限られていますが、年間約 5 万～ 10 万羽の海鳥に影響を及ぼしていると推定されています。

はえ縄：毎年少なくとも 16 万羽、潜在的には 32 万羽以上の海鳥がはえ縄漁で命を落としていると推定されています。

巻き網：海鳥が絡まるというエビデンスが蓄積されつつありますが、世界中の漁船団における混獲率を評価するにはさらなる調査が必要です。

刺し網：世界中の小規模沿岸漁業で最も広く使われている漁具。毎年 40 万羽の海鳥が刺し網で命を落としていると推定されています。


© Patricio Ortiz

© Dimas Gianuca

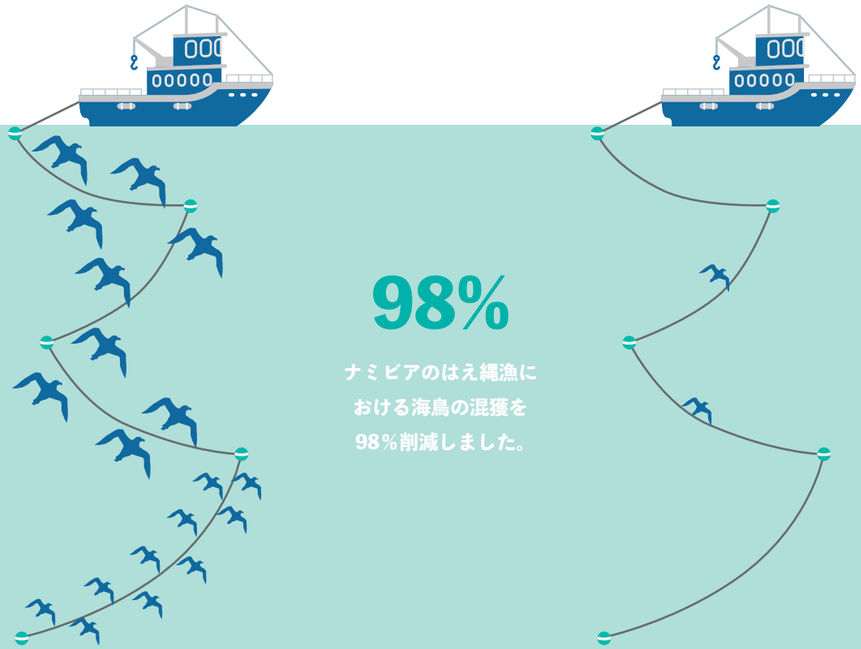
© Leo Tamini

地域密着型の取り組み

海鳥を混獲から守るチャンピオン

アルバトロス・タスクフォース（ATF）は、海鳥の混獲削減の専門家からなる国際チームです。ATFは、フンボルト海流やベンゲラ海流、パタゴニア大陸棚という、海鳥にとっても重要な世界有数の海洋生態系で活動しています。

10 年以上にわたって技術的な対策の試行と改善をしてきた ATF の優先事項は、漁船団全体で効果的な対策を実施してもらい、海鳥の混獲を長期的かつ持続的に削減できるように、私たちの専門知識を活用することです。



98%

ナミビアのはえ縄漁における海鳥の混獲を98％削減しました。

ATF対象の10の漁業のうち
9の漁業
で海鳥混獲対策の規則が導入されています

海洋タスクフォース

海洋タスクフォース（MTF）は、海鳥にとっての主要な脅威の改善に取り組むため、ヨーロッパと中央アジア地域全体のバードライフパートナーによる活動のコーディネートを行っています。

地域における海鳥のための海洋保護区の特定と指定、そして海洋管理や持続可能な漁業、海鳥混獲削減への取り組みに関連する EU の法律の強化に特に力を入れています。

西アフリカ

地域のパートナーのネットワークを通じて、混獲の持続可能な対策と効果的な生息域管理の実施に関する豊富な経験を共有し、その結果、地域や国による取り組みの向上に貢献しています。西アフリカでのプログラムを通じて、この地域の海鳥の保全状況や生息域に関する認識を高め、複数の国で海洋保全のための法律と政策を強化しています。

公海上の混獲に挑む

いずれの国の支配も及ばない国際水域である公海において、海鳥が直面している脅威に取り組むには、連携が必要不可欠です。グローバルなパートナーシップであるバードライフは、類を見ないほどの膨大な量のデータへのアクセス可能です。また、国際的な政府や NGO と協力し、海鳥と公海の海洋環境のためにポジティブな変化を促すことができる特殊な立場にあります。

地域漁業管理組織（RFMOs）

5つのRFMOsが世界中の公海におけるマグロ漁業を管理しています。これらの影響力が大きい組織の管轄海域は、世界のアホウドリ類の分布の80%と重なっています。そのためRFMOsは、この象徴的な海の渡り鳥を混獲の脅威から守るために不可欠な存在となっています。

世界規模での海鳥保全のために、5つのRFMOs全てで混獲回避措置が採用され、当プログラムもその過程で貢献しました。

その後も私たちはRFMOsと連携して、アルバトロス・タスクフォース（ATF）の成功を再現するべく、海鳥の混獲回避策の開発、実施、モニタリングを行っています。

海鳥に優しい水産物

持続可能な漁業の実現には、水産物を扱うサプライチェーンのあらゆる関係者が協力し合うことが必要です。

小売業者との協働

持続可能な方法で調達された製品や、環境負荷の低減に対する社会の要求が高まる中、小売業者はその期待に応える方法を模索し続けています。こうした取り組みを支援するため、私たちは他のNGOや小売業者、水産物の卸売業者と密接に連携し、サプライチェーンを通じて漁業管理の改善を推進しています。

この取り組みにより、海外で有名な小売業者は、海鳥の混獲リスクが高く、対策が確立されていない漁法で捕獲された魚の調達を、可能な限り回避する方針を発表しました。

日本は世界最大の水産物消費国および生産国の1つであり、世界の水産物市場において重要な役割を担っています。当プログラムは日本のサプライチェーンと協力し、漁業が環境に与える影響に対する認識を高めてもらい、小売業者や水産会社などの調達方針に混獲削減が含まれるように働きかけています。

世界の海洋政策への働きかけ

海洋性の多くの生態系では、修復不可能なほどの劣化が急速に進んでいます。国連は「持続可能な開発のための国連海洋科学の10年」（2021-2030年）を宣言し、機能性も回復力も高い持続可能な海洋を支える科学的知識とパートナーシップの形成を通じて、人類と海洋の関係に変化をもたらすことを目的としています。

当プログラムでは海鳥保全のため、国際的な政策関連から、国単位での生息地保全、個々の生息地レベルの海洋空間計画に関する働きかけまで、幅広い活動を行っています。

国際レベルでは、生物多様性条約（CBD）や移動性野生動物種の保全に関する条約（CMS）などすべての多国間環境協定において、海鳥とIBAが政策目標の一部として考慮されるよう取り組んでいます。

地域単位では、オスロ・パリ条約（北東大西洋）、ナイロビ条約（西インド洋）、アビジャン条約（南東大西洋）など、さまざまな地域海洋プログラムと連携しています。

欧州連合（EU）では、IBAの詳細一覧が特別保護区（SPA）の指定に役立ち、SPAは特別保全区（SAC）とともに、ヨーロッパの最も重要な生息地と種に法的保護を与える「ナチュラ2000」ネットワークを形成しています。

アホウドリ類とミズナギドリ類の保全に関する協定（ACAP）

国際活動と共同管理を通してアホウドリ類とミズミナギドリ類を守る、多国間協定であるACAPで、バードライフは積極的な役割を担っています。当プログラムは、アホウドリ類とミズミナギドリ類の保全状況と、漁業による混獲回避策の新たな研究の、両方についての重要なデータを提供しています。

ACAPとの協力により、漁船団全体に海鳥混獲回避の最善策が浸透するよう支援し、漁業者向けの「対策ファクトシート（概説）」を多言語で作成しました。

© Dimas Gianuca

BirdLife INTERNATIONAL | Partnership for nature and people

バードライフ・インターナショナル海洋プログラムは、海鳥が直面する深刻な脅威の改善に取り組んでいますが、私たちだけでできることではありません。

皆さんにどのようにご協力いただけるかや、海洋プログラムの活動に関するお問い合わせはこちら：

一般社団法人 バードライフ・インターナショナル東京

〒103-0014　東京都中央区日本橋蛎殻町 1-13-1

ユニゾ蛎殻町北島ビル 1 階

電話：03-6206-2941

E メール：tokyo.office@birdlife.org

@BirdLifeMarine
@BirdLife.International

WWW.BIRDLIFE.ORG/MARINE

デザイン：www.dougdawson.co.uk

© Dimas Gianuca